

雲間から力強く登ってきた初日。今年も素晴らしい日の出です。昨年は新型コロナウイルスに不安な毎日でしたが、今年こそ人類がペストやスペイン風邪等の人類の危機を乗り越えてきたように、医学の力を信じ、病気に負けない世界になるようお願いいたします。

リアリズム写真集団 菅谷秀昭



初日に誓う

命、尊厳が何よりも大切にされる国へ

日本共産党衆議院議員 もとむら伸子

2021年の幕開けです。

とうとう核兵器禁止条約が発効します。

1946年の核兵器など大量破壊兵器廃絶の国連総会第一号決議から75年もかかってしまいました。世界が大きな一歩を踏み出すことを心からうれしく思います。

私は、父が長崎で被爆をした被爆2世です。父の弟は、真正面から原爆の光をあび、その年のうちに幼い命を奪われました。

父の被爆体験や被爆者の方々の声を直にお聴きをする機会も多くありました。谷口稜暉さんの被爆70年の8月9日「平和への誓い」。命ある限り世界中に語り続けるとの言葉を忘れることはできません。

被爆2世として、被爆者の方々の声をお聴きをしてきた1人として、平和憲法9条をいかし、日本政府に核兵器禁止条約を批准させる歴史的使命があると痛感しています。

被爆者の方々の人生をかけた平和のクリエイターとして体現されてきた姿に学び、命、尊厳が何よりも大切にされる日本と世界にむかって、日々精進してまいります。

戦争反対、核兵器廃絶のためにぶれずに努力し続けてきた日本共産党をどうか大きく伸ばしてください。心からお願いたします。



政権交代、本気で実現させる

鈴鹿市日本共産党後援会長 吉田一男

新型コロナに政治や暮らしが大混乱した1年でした。

思い出すのは3月、安倍首相の「休校要請」に全国の教育委員会が揃って追随したこと。1人も感染者のいない市や町まで日本中が休校。おかげで子どもたちは3か月も学校で学ぶ権利を奪われ、親は仕事のやりくりで四苦八苦。思いつき、非科学的、オリンピックありき、経済優先のコロナ対策。

8月、とうとう行き詰って政権を投げ出した安倍首相。代わって総理の座についた菅総理も輪をかけてひどい。「雪深い秋田の農家の長男として生まれ・・・」庶民が喜びそうなドラマ仕立てで登場するも、たちまち馬脚を現して、数か月で支持率は4割台に低下。国会では「お答えを差し控える」を連発。あなたに「差し控える」権利はない！質問に答えないのは、主権者である国民を愚弄することです。

そして12月、検察の捜査で桜問題が再燃。安倍氏のウソ答弁は118回だったことまで明るみになりました。誠実な政治、ウソのない政治、こんな当たり前のことを求めなければならないとは、日本国民として情けない。でも、安倍・菅政治には何としても決着をつけねばなりません。

今年は選挙の年、野党共闘の発展と共産党の大躍進で、政権交代を本気で実現させましょう。



今年もみなさんとともに

鈴鹿市議会議員 高橋さつき



昨年は新型コロナウイルス感染症に大変振り回されましたが、当たり前と思っていた日常はとても幸せな日々だったことに気づかされました。また人と繋がることの大切さや、私たちの国は、どれだけ歪んだ呆れる政治がされているかも、身にしみてよく分かった1年でした。

マスクをし、自粛をし、本当に国民は頑張っているのに、自助ばかりを押し付け、意に沿わない者は排除していく、自分達だけのための政治をする菅政権ではこの先不安しかありません。

コロナ禍で、国民の怒りは確実に政治を動かしています。これからも皆さんとともに声をあげ、命と暮らしを優先にする社会へ、ありのままの自分で居られる社会へと、政治をひっくり返していきましょう！今年もよろしくお願いいたします。

34才で市議会に出て34年

鈴鹿市議会議員 石田秀三



早いもので私が市議会に議席を得てから、本年4月で満34年になります。スタートが1987年、まだ元号が「昭和」で、私は34才の青年でした。新憲法・地方自治法の下での市政73年の半分近くを、議員として参画してきたこととなります。当時の議員活動は、やっとFAX・ワープロ・ポケベルが出始めたところで、電話はダイヤル式、書類は手書き、調査や連絡、議会報告など何をするにもアナログ・手作業が主でした。パソコン・スマホで世界の情報が取れる今とは大違い、隔世の感があります。「平成」生まれの若手の議員と話しても、通じないはずです。

しかしその割に、政治は昔ながらの買収・飲み食い・利益誘導・私物化に明け暮れている、という情けない状態で、それも地方議会でもとっくに卒業していることを、国のトップのアベ・スガが率先してやっているのですから、呆れてモノが言えません。何が「デジタル庁」だ、その前にウソ言うな！情報かくすな！ちゃんと日本語しゃべれ！今年の選挙では、市民の常識が国政を動かす結果を出そうではありませんか。

2021 共産党に期待します

菅政権に、さよならの年に！

嘘を重ね、秘書に責任転嫁を図る首相の醜悪な姿や、コロナ感染対策の無策など、自公政権のいたらくが改めて浮き彫りになった昨今です。

菅内閣の支持率は、急落したものの、立憲野党への支持は、総じて伸び悩みました。今年おこなわれるであろう衆議院選挙でも、民意は、政治そのものに背をむけてしまうのでしょうか。

ここでこそ、私たち市民の出番。立憲野党の一層の奮起を促し、各党が応えてくれることにより、政治は変えられます！

新しい年、菅政権にさよならを！鈴鹿から多くの声を！よろしくお願いいたします！！

(秘密保護法と共謀罪に反対する鈴鹿市民の会
山本あけみさん)



国の姿勢を変え、医療を守る



昨年は、新型コロナの影響で保健所や医療施設の役割が注目されました。私たちの健康が危機的な状況になった時、その守り手である医療関係の人や施設が危機的状況に陥ってはいけません。健康を利益のための効率化の犠牲にしてはいけません。新自由主義は、国の在り方を利益追求の徹底化にまい進させてしまいました。

私たちみえ医療福祉生協は、60年ほど前の伊勢湾台風の災害経験による、生活や健康を守るための医療機関の必要性の中から生まれました。以来、患者目線での医療を行っています。今、さらによりよい医療を行うために病院を新しい施設にしようとしています。

今の国の姿勢を変えさせていくために、ぜひとも頑張ってくださいと思います。

(みえ医療福祉生協鈴鹿支部支部長 菅谷芳則さん)

2021 共産党に期待します

無能で強欲で悪辣な現政権

コロナ禍が始まろうとする昨年3月に交通事故に遭って入院しましたが、直後に院内感染予防策として面会が全面禁止になり、家族の顔さえ見られない入院生活となりました。病院で働く方々は、心細い入院生活を支えてくれました。退院後も通院治療は続いており、その方々が置かれている苦境を見聞きしています。



感染の危険に常に晒され、日常生活に著しい制限を受けながら医療の最前線で働く方々に、政府は手を差し伸べるどころか冷遇し、感染拡大抑止策を怠るだけでなくGoToでトドメを刺そうとすらしています。

無能で強欲で悪辣な現政権に対し、私はここに書けないような悪罵を伴う激しい怒りを抱え、医療従事者の献身的な努力が報われる為には、政権交代しかないという思いを殊更強くしています。

今年こそ政治から古い日本の残りカスを掃き出して、野党共闘で日本を『国民の手に』取り戻す年になって欲しいと願っています。

(東磯山 Kさん 40代男性)

女性パワーでがんばります！



年末に女性後援会でスタンディングをしました。5人がマイクで街頭から訴えました。共産党の躍進を願って今年もがんばります！

(女性後援会会長 真柄真知子さん)

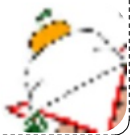


自助の菅政権を倒そう

2022年10月から実施予定の「75歳以上医療費窓口負担の2倍化」案が、政府と与党の茶番協議で決められました。このまま進められれば、私80歳で、負担が2倍になります。平均では3万4千円の負担増が、75歳以上の高齢者、単身者の年収200万円以上、2人世帯で320万円以上に課せられます。えらいことです。私と妻の2019年の医療費(通院のみ)は10.5万円、倍は21万円、妻は9.5万円、倍は19万円、20万円の負担増です。自助政策の極みです。

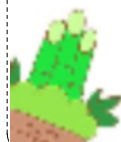
今まで、年金者組合は2倍化阻止署名活動を取り組んできました。民意無視の安倍、菅政権の社会保障切り捨て、自助強化政策に、真っ向対決している共産党、そして他の野党と協力・共同して、残された2年間で、何としても阻まねば、受診抑制するしか生きていけません。必ずその間に、総選挙があります。この絶好機を逃さず、市民と野党の共闘で、菅自公政権を倒すしかありません。

(鈴鹿年金者組合 勝谷鐵幸さん)



子どもでも反省するのに

娘夫婦が孫を連れてきていた時の話。わんぱく盛りの長男が、ソファーに色鉛筆で落書きをした。それを見つけた僕が「ソファーに書きちゃだめ！」と叱り、しゅんとなった彼に父親が「何て言うの？こういう時は」と厳しい顔で言った。すると彼は涙目になって僕に「ごめんなさい」と謝った。さて夕方になり、「お風呂は誰と入る？」と聞かれた時、いつもは「じいじと入る！」という彼が、少し考えてから「ママと入る」と答えた。僕は「あ、きまりが悪いので今日は僕を避けたんだな。ちゃんと考えてるんだ」と思い、この子の成長を感じて嬉しかった。子どもでも悪いと思ったらちゃんと謝るし、その後の行動も変わる。それなのにいい大人が悪いことをして、それを指摘されても謝らなかったり、形だけ謝罪して全く反省の態度が見られなかったり・・・特にそれが国のトップにいる方々の行動だとすると、「どんな育てられ方をするとこんな大人になるのか？」と考えてしまう。



(南玉垣町 道家 桂さん)

市長に要望書を提出

鈴鹿・亀山地域に存在する労働組合の連合体、「すずかめ労連」の事務局を担当しています。

医療・介護、保育所・幼稚園・学校・学童保育などの現場で働く人たちにPCR検査の定期的実施を中心とする「新型コロナ要望書」を、コロナ第3波を前後して鈴鹿市と亀山市の市長さんへ提出しました。鈴鹿市では鈴鹿社会保障推進協議会と共に市長さんに直接、要請が出来ました。

まだ有効な社会的検査は実現していませんが、市長要請には共産党市議団の皆さんが大変、ご尽力頂いたことに感謝しています。

いま、国の役割を捨て、「自助」を叫ぶ人たちに政治は任せてはけません。共産党に頑張ってもらい、野党連合政権の実現を心から願うものです。

(すずかめ労連 向井正美さん)



Think Globally Act Locally

全国革新懇ができて、40年目になります。志位さんも登場して話し合いが持たれています。

革新懇は平和・民主・革新の日本をめざし各界との共同・草の根からの運動を進める団体です。鈴鹿では去年は「水道の民営化」の危機を学習し、遺伝子組換えの問題点を訴えてきました。いつも時代のひとつ先を歩いて、

Think Globally Act Locally (地球規模で問題をとらえ行動は足元地域で)の考えできました。

ただ、100名の会員ですので、知る人は知る程度であり市民的には認知されていません。そこで今年は革新懇の名誉にかけて、会員増と4月には「自治体民営化のゆくえ」と題して大講演会をします。赤旗読者のみなさんも「鈴鹿革新懇」の会員になって鈴鹿の夜明けを創りませんか！

(鈴鹿革新懇事務局長 萩森繁樹さん)



共産党議員の質問に期待する

国会審議、質問は何といても共産党議員に限る。背景にある国民の苦悩や怒りをきちんとくみ上げ、正確で詳細なデータを集め、企業献金とは無縁だから、企業名を挙げて厳しく追及する。コロナ禍で話題になったのが2019年4月の田村智子議員。公務員定数削減による感染研の機能の弱体化を批判した。その後1年足らずで危惧は現実のものとなったのだ。また「桜」疑惑の追及も最初は宮本徹議員。桜を見る会参加者の急増を質した。そして夕食会問題は田村議員。公的行事と安倍後援会との一体化の実態をあぶり出した。一貫して議会制民主主義を守る共産党議員の質問に期待を寄せ、これにまっとうな答弁のできる内閣を待望する。

(九条の会すずか 稲垣恵美子さん)



コロナ禍でも保育園は がんばりました

コロナ禍で自粛が求められるこの頃であっても、保育園では子どもたちの声が響き、変わらない日常が流れているように見えます。

でも、「毎月の誕生会は集まらないよね、園庭でやってみる?」、小学校の体育館を借りて行う400人以上の人が集まる運動会はどうする?運動会のことだけでも、職員会議や保護者とともに考える運営委員会等で何回も話し合いました。

何より普段の生活の中で、自分たちが感染しないように、保護者やつどの広場事業(子育て支援)に来る母子、一時預かりを利用する家庭など、保育園を訪れる多くの人が感染していないかに、神経をすり減らす日々を過ごしてきました。

保育士はその責任のわりに処遇が低いことが近年大きく取り上げられてきましたが、このコロナ禍においても開園し続けた保育園で働く職員に対する正当な評価を求める一年にできればと思います。

(福保労ぐみの木分会 田中理華さん)



健康で文化的な生活、守りたい

鈴鹿市の医療ケースワーカー・福祉関係者などから鈴鹿市の生活保護行政について苦情・相談が多くありました。そこで平成30年12月「鈴鹿生活と健康を守る会」を設立しました。そして平成31年2月、生活保護利用者の写真を保護台帳に添付していることを発見し、人権侵害であるのですぐに中止させました。

昨年12月、鈴鹿市議会では生活保護行政について共産党議員などから質問していただき、実態を暴くことができました。本年1月26日には生活保護行政の適切な運用について保護課と懇談会を開催し、あるべき姿を追求します。今後も共産党議員の支援を背に、一人ひとりの生活相談を通じて市民の健康で文化的な生活を守る運動を実践したいと思います。

(鈴鹿生活と健康を守る会会長 下井信夫さん)



総選挙での躍進を

2017年7月、国連で核兵器禁止条約が採択されました。そして約3年3か月過ぎた昨年の10月に条約批准国が50か国に達しました。ついに、1月22日に条約が発効することになります。世界地図に詳しくない者にとっては名前を知らない国がたくさんあります。核大国が「批准するな」と圧力をかけるなか、51か国(12月11日)が批准書を国連に提出しています。

ところで、世界唯一の戦争被爆国である日本はいかがでしょうか。自公現政権は「核兵器をなくすことに異論はないが、アプローチがちがう」と言って条約に背を向けています。こんな政府に誰もが「情けなさ」と腹立たしきを感じることでしょう。

日本をこの条約に批准させるためには政府を変えるよりほかに方法がありません。来る総選挙で日本共産党を躍進させ、野党連合政権を実現させましょう。

(鈴鹿市平和委員会 川北秀洋さん)



苦しいからこそ一票を

昨年、さまざまな政府の政策に、多くの人が生活困窮に陥り、そして、多くの人が命まで落としてしまうこととなったと思う。今年は大変な選挙がある。恐らく多くの人が政治は生活だと実感させられた昨年。もしかしたら、現政府の多大な功績はそこなのかもしれない。それに気付いたら、今度はそれをひっくり返さなければ。まだまだ無関心が多い私達。もっと強く多くの人に自分事として受け止めてもらい、そして、共産党など野党の力を集結して共闘で、政権交代しなければいけないと思う。苦しいからこそ一票を投じなければ。しっかり政治を見て、少しでも多くの人に知ってもらわなければいけないと心底思う。



まるで時代劇の悪代官

2020年、コロナと共にあった昨年は、私たち民主商工会も大打撃を受けました。とくに飲食をはじめとする各業種が、直面する危機をのりこえようと一生懸命努力いたしております。



その中で政府は相も変わらず片寄った、弱者に中身が薄い政策ばかりしております。

前総理の安倍氏にしても、テレビの前で118回もウソをつき、あげくの果ては秘書のせいにする、まるで時代劇の悪役御代官そのままを、地で行っている、見ているわれわれは不愉快ではないし、子どもの教育にもよくない。今の政治は、一部の人間が好き勝手していてわれわれに中身がとどかない、まるでバカ殿のようである。

まずは、今私たちが直面するこの危機を乗り越えるために、我々と国の架け橋になる共産党とともに、我々日本人が日本人でよかったと思える国にできるよう、要求実現に向かい、ともにたたかって行きたいと思います。



歩いてみよう 鈴鹿30コース!!

昨年5月末に近所を歩いていると、以前一緒に体育委員をしていたWさんに出会いました。そして、「この間ヒマなので、スポーツ推進委員協議会が作った中学校別のウォーキングコース30コースを歩いた」とのこと。いいね！思い立ったが吉日、さっそくネットで「鈴鹿市ウォーキング」と検索して、コース別地図をダウンロードしました。

6月から歩き始めて、年末までに21コースを歩きました。歩くといいこといっぱい。車だと気づかないことが分かります。思いがけない人に出会うこともあります。そして何より汗をかいて気分爽快。あと残り9コースは国道1号線より西側でちょっと遠いですが、今年の正月はヒマなので、しっかり歩こうと思います。（岸岡町 橋詰圭一さん）



フードパントリーの 活動に関わって



12月20日(日)白子コミュニティセンターを会場に開催された「フードパントリー」の連絡先という事で関わらせてもらいました。何人もの方から物資提供の連絡をいただき、事務所にも大量の物資を持って来てもらいました。カンパ金もたくさん集まりました。初めての取り組みなので何人の人が来てくれるのか不安でしたが、当日は15人の参加があり、何人かの人を生活相談につなげることができました。生活相談をうけたある方は入ってきた時の顔が帰る時には少し明るくなっていたので嬉しかったです。

1回やっただけです、本当にやって良かったです。物資やカンパを下された方々の暖かさに触れ、フードパントリーに来たことで、関われる事の大事さを痛感しました。この取り組みは継続してやっていくべきだと思いました。これからも、御支援よろしく申し上げます。

(自由が丘 桑原千香子さん)

絵手紙



国府町 宮崎ヨシ子さん



磯山 真柄真知子さん

<今年の後援会行事>

春を呼ぶつどい

コロナ禍の中、恒例の「新春のつどい(1月)」は見送り、4月に「春を呼ぶつどい」を実施します。楽しい文化行事や国会議員のお話などを計画しています。



4月10日(土)13:30
鈴鹿市文化会館けやきホール